

【明治土地台帳附属地図】

宜野湾市指定有形文化財

地図は目的に応じて、それぞれの時代の土地(地域)の状況が描かれます。

明治土地台帳附属地図は、地租を課税するための土地台帳の附属地図として、1898(明治31)年から1904(明治37)年にかけて作成されたもので、宜野湾市に関連する地図としては、16葉が現存しています。その内、宇地泊区に関連する地図としては4葉が現存しており、村図(大字図)1葉が6000分の1の縮尺で、字図(小字図)は、宇地泊村字宇地泊、同字兼久原、同字濱原の3葉が1200分の1の縮尺で描かれています。

これらの地図は近代沖縄以前の土地区画と土地の利用の状況が詳細に描かれており、現在の地図と重ねてみるとそれぞれの変化を読み取ることができることから、宜野湾市の歴史や土地の活用を知る手がかりとなる貴重な資料です。



戦前の宇地泊集落のイメージ図

中頭郡宜野湾間切宇地泊村全圖



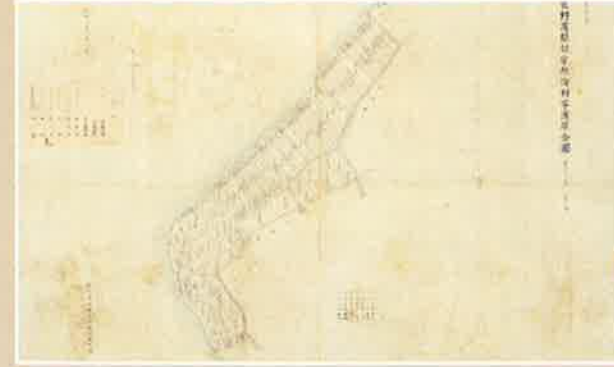
宜野湾間切宇地泊村字宇地泊全圖



宜野湾間切宇地泊村字兼久原全圖



宜野湾間切宇地泊村字濱原全圖



編集・発行: 宜野湾市教育委員会 文化課

〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩1-1-2
TEL.098-893-4430

編集協力: 株式会社 沖縄環境科学研究所

〒901-2201 沖縄県宜野湾市新城1-24-13
TEL.098-893-8444



宇地泊歴史文化遺産マップ



宇地泊について

宜野湾市の南西側に位置し、「ウチドゥマイ」と呼ばれます。1671年、宜野湾間切が成立するまでは浦添間切に属していました。「絵図郷村帳」には、浦添間切内みな村と記載され、「琉球国由来記」では宇地泊村、「琉球国旧記」では内港邑とあります。「内みな」は「内みなと」の略で、内港・内泊と書いたのを、ウチトマリと読むようになったと東恩納寛惇著の『南島風土記』に記載があります。

沖縄戦前は宜野湾村(当時)唯一の半農半漁の集落で、女性はカミアチネー(行商)で知られておりました。1974(昭和49)年にキャンプ・ブーン(返還後)の開発が進み、宜野湾市内で最も発展の著しい地域となっています。

宜野湾市全域図

